

平成 28 年度 学校経営計画

昨年度の学校評価や今年度の新しい状況をふまえ、平成 28 年度「学校経営計画」を定めましたので、お知らせします。

領域	テーマ	方策等（下線部は新規）
学習指導	1 授業改善	授業力向上小委員会を立ち上げ授業改善に取り組む。全専任教員は授業アンケートを実施し、評価 3.0 以上を実現する。ICT 教育の抜本的改革を計画し、無線ランを活用した授業を積極的に行う。
	2 教育課程	新教育課程を実施する。また新指導要領の動向をふまえながら教科等で汎用的能力について深める。新科目「国際理解」及び「ESD」を円滑実施する。
	3 協同学習	協同学習について研究開発事業やSGHとも連携しつつ、理論的に再整理すると共に、後期課程での実践を広げる。
	4 Kobe プロ	KPシラバスの書式を統一すると共に、実績を共有できるよう資料整理等を行う。図書 の 拡充を図り、Kobe プロの部門ごとの教員コンファレンスを実施する。
	5 食育指導	ESD の一貫として教科の枠をこえた食育の充実を図り、給食を授業時間の枠内で実施する。アレルギー対策としてエビペン研修を行なう。
生徒指導	6 自主活動	生徒会執行部活動及び生徒による諸行事（文化祭・体育祭・合唱祭等）を支援する。執行部と副校長懇談会を継続する。また、GCC による GAP の取組を支援する。
	7 宿泊行事	2年奈良、4年宿泊研修を廃止する。GAP では SGH との関連を明確にしつつ、各宿泊行事を成功させる。学校行事を検討すると共に、ケアンズ修学旅行の準備を行う。
	8 部活動支援	各部への顧問配置を増やす。生徒等の意見・要望を集約し、部活動の改善について検討する。外部コーチ制を拡充し、部室増設構想を策定する。
	9 生活指導	シティズンシップ育成に関して「互いを認めあう」をキーワードに、道徳・HR等を通して、学校としての組織的な教育を行う。
	10 教育相談	スクールカウンセラーと連携した教育相談事業を継続する。QU 活用を定着させ、個々の生徒に応じた学習支援体制を継続する。
	11 生徒福利	購買部設置 2 年目にあたり、生徒会・保護者の要望を踏まえ、必要な改善を検討する。神戸大生協の運営をサポートする。
進路指導	12 進路指導	学習困難生に対するていねいな相談体制を整備する。後期課程での進路に関する指導を綿密に行うと共に、各種資料の分析などを通して、情報の組織的共有を図る。
	13 進路保障	6 年では、生徒の進路希望実現に向けた進路指導・相談を丁寧に行うと共に、進路保障に尽力する。
	14 キャリア教育	KUトライアルの実施時期を検討する。国際教育との関連を踏まえつつ全学年を通してキャリア教育に力を入れる。
	15 進路広報	進路情報の公開を継続すると共に、学年保護者会等を通して、前期課程も含めた生徒・保護者への進路広報活動を強化する。
研究政策	16 SGH 研究開発	SGH 指定 2 年目。事業を飛躍的に発展させ報告会・公開授業研究会等を成功させる。また、検証評価体制を整備すると共に、各種事業ごとの評価を実施する。
	17 SGH 課題研究	SGH「課題研究」については、卒業研究の枠組みを利用して実施する。教員の指導体制を強化すると共に、4 領域ごとの大学の支援体制を整備する。
	18 SGH 国際交流	SGH 指定を受けて GAP を計画的に実施し、GAP マイレージ制を整備する。「留学生受入れ」「国際交流事業の開拓」等を円滑に進める。
	19 地歴研究開発	研究開発学校指定 4 年次にあたり、新科目「地理基礎」、「歴史基礎」の研究開発を本格実施し検証する。学術会議等との連携を深め、運営指導委員会、公開授業研究会等を円滑に実施する。

	20 研究活動	公開授業研究会をSGH報告会と一体的に進める。ユネスコスクール加盟をふまえ、ESDの視点を強化すると共に、発達科学部のESD事業に協力する。
危機管理	21 安全管理 安全教育	防災訓練を徹底する。神戸市の支援を得て、防災備蓄物資の拡充を図る。教員対象の研修、生徒対象の感染症対策、防犯・防災・衛生教育を行う。 <u>授業・部活動時における事故発生時対応について研修を行う。</u>
	22 情報管理	情報管理の改善を図ると共に、必要な情報機器・システムの整備を行う。SGH及び英文ホームページを円滑に運営する。
	23 施設整備	<u>第二アリーナ空調設置、舞台照明の改善</u> など設備の整備を行う。年度別教室配備計画を策定・実施する。必要な什器を揃えると共に、ICT教育環境を充実させる。
学校経営	24 人事計画	交流人事に関する新基本方針を策定する。昇給に関する新ルールを継続実施する。 <u>ALTの常勤化を行う。</u>
	25 教員研修	<u>課題検討委員会を設置すると共に、授業力向上、ハラスメント対策等9回の研修を実施する。</u> 同僚性を高める場として、校内の授業公開等を活用する。各種研修出張を支援する。
	26 財政措置	急減期に対応するため、借入金を継続すると共に、緊縮財政を継続する。 <u>教育環境整備費と施設説示充実費の寄付金額について教育後援会と共に検討する。</u>
	27 事務室連携	事務室の改組に伴う財政、職員会議参加、電話対応等をはじめとする事務室との一体的運営を定着させる。
	28 保護者対応	学年保護者会の持ち方をPTAと共催にする。PTSA（生徒が参加する形態）の活動を推進すると共に、保護者と学校が情報共有できるよう工夫する。
	29 適性検査 広報	オープンスクール、文化祭招待、適性検査説明会及び連絡進学説明会等を通して、入学適性検査の広報活動を徹底する。 <u>帰国入検の日程を変更する。</u>
	30 適性検査 実施	昨年度の総括をふまえ、問題作成及び連絡検査及び一般適性検査を円滑に実施する。実施に向けた準備体制を整える。
大学連携	31 高大連携	SGH 高大連携委員会と連携し、各種事業を円滑に進める。神戸大学との <u>高大接続入試を実施すると共に、検証作業を進める。</u>
	32 小中連携	連絡進学に関する広報活動を円滑に進めると共に、実施後の検証を行う。英語教育をはじめとする小中等連携を進める。